

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の言語表現	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] - 乳幼児の言葉の発達や児童文化財に関する基本的な理解を深めるとともに実践力を身につける。 [授業全体の内容の概要] - 言語表現の基本的な理論を学んだ後、実践にいかせる演習を中心に行う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] - 保育内容の領域「言葉」のねらいや内容、乳幼児の言葉の発達を理解し、さまざまな児童文化財等の実演を通して、実践に応用できる力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 児童文化財とは何かー知育・徳育・美育のはたらきー 2 児童文化と表現ー子どもの表現を育てるためにー 3 子ども (乳幼児) のことばの発達 4 児童文化財とことばー保育内容領域「言葉」とのかかわりー 5 子どものことばを豊かに育む保育者の役割ー保育者の役割と環境構成ー 6 おはなし／絵本／紙芝居／素話 (ストーリーテリング) 7 パネルシアター／ペープサート／人形劇 8 製作① 9 製作② 10 製作③ 11 製作④ 12 製作⑤ 13 製作⑥ 14 実演発表 15 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] - 保育者のための言語表現の技術 (萌文書林) 《参考文献》 - ことばと表現力を育む児童文化 (萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			